

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子上中里保育園
施設所在地	東京都北区上中里1-47-5
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物「製作」
○生き物の製作

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園は春には園庭に「ダンゴムシ」や「テントウムシ」、夏には「セミ」というように園庭に出ると自然と虫や生き物に出会うことのできる環境にある。製作活動を通して、さらに子どもの興味を高めていきたいと思いこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【ダンゴムシに出会う】

4月：園庭でダンゴムシを子どもが発見する。子どもたちが園内で飼ってみたいという声があがる。数名の子どもたちが図鑑でダンゴムシのことを調べ、どうすればダンゴムシが育てられるかを子どもたちが考える。調べたことをダンゴムシ図鑑にまとめ、保護者にも見てもらえるように玄関ホールに設置する。

【てんとう虫のタマゴを発見】

5月：園庭で戸外遊び中、子どもが何かの卵を発見。何の卵かわからないが、木に付着した卵を毎日見守ることにした。観察がクラスの半数以上の子どもに広がった。

しばらくして卵がかえり、てんとう虫だったことを発見。子どもたちがてんとう虫の種類を調べたが、園にある図鑑ではわからなかったため図書館で大量の図鑑を借りて、園のてんとう虫図鑑を作成し、玄関ホールに設置した。

てんとう虫の観察がきっかけで、子どもたちが自分の好きなてんとう虫を制作。作成したてんとう虫は廊下に掲示し、保護者にも共有できるようにした。

【チョウチョの青虫に出会う】

6月～7月：園庭のすみれの花のプランターに青虫が何匹もついていることを見つける。すみれの花はかれかけていたため、このままでは餌がなくなり青虫が育たないと思い園で育て始める。えさにするすみれを探しに行ったが、どこにもなかったため、プランターに残っていたすみれをえさにして育てた。

育って羽化したチョウチョは観察して、自然に返した。

また、別の日に自宅にゆずの木についていた青虫を持ってきた子どもがいた。餌はスタッフの自宅で育てていたレモンの葉っぱを与えて、飼育した。無事クロアゲハに羽化し、観察した後、自然に返した。

2匹のチョウチョを飼育した後、自然への興味がクラス全体に広がり、チョウチョをモチーフにしたオーナメントの制作を行い、運動会で飾った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・クレヨン・カラーペン、画用紙・折り紙など製作に必要な素材を潤沢に用意し、子どもが「やりたい」「作りたい」と思ったものを作れるよう準備をする
- ・保育室に製作コーナーを設け、子どもたちがいつでも製作に取り組めるような環境を設定する
(くぎってパネル、ブラザーカッティングマシンスキャンカットCM300(4点セット))
- ・写真等の掲示を行ない、子どもたちが自然と興味を持てるようにする。また視覚的なものを充実させることでどの児にも分かりやすいよう配慮する

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

4月：虫探し・ダンゴムシの飼育・ダンゴムシの本作り・調べ学習

・子どもたち数人がダンゴムシに興味を持っているようだったため、絵本コーナーにダンゴムシの本を多く設置する。またダンゴムシの成長過程を保育室に掲示し、子どもたちのダンゴムシへの興味が広がるよう環境を整える。

・ダンゴムシを探して捕まえるだけだった遊びから自分たちで飼ってみたいという気持ちへ変化をしていったため、保育室にてダンゴムシの飼育を始める。積極的に活動へ参加をしていた子どもたちが画用紙や模造紙を使って自分たちで調べたことを本へまとめる。

5月・6月：虫探し・テントウムシの観察・テントウムシの本作り・調べ学習

・園庭にテントウムシの卵を見つけ、観察を開始する。図書館へテントウムシの本を借りに行き、テントウムシについての調べ学習を進める。子どもたちが役割分担を決めながら調べた内容を本へまとめる。

・作成したテントウムシの本は玄関ホールへ展示をし、保護者や他のクラスの児に手に取ってもらう。それにより自分たちの活動が評価をされ次の活動への意欲が増していく姿がある。この活動はクラスの半数に広がっていった。

7月：チョウチョの観察・飼育・製作

・一人ひとりが生き物の成長段階を意識した製作を行なうようになる。画用紙や折り紙など、さまざまな素材を使って楽しむ。

・チョウチョの飼育では子どもたち自身でどのようなえさが必要か調べ、それを園周辺に探しに行ったり、花屋に問い合わせ(保育者が電話をする)をしたりする。園内のみだった活動が園外へと広がっていく様子が見られる。またチョウチョの飼育では青虫→さなぎ→成虫と生き物の全ての発達段階を目にすることができ、羽化した喜びはとても大きく、活動はクラス全体に広がっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ダンゴムシの観察・飼育では担任と一緒に調べたりまとめたりとしていた子どもたちであったが、テントウムシ、チョウチョと活動を重ねていく中で、子どもたち自身で活動に取り組み、まとめていく姿が見られた。サークルタイムをする時間も自然と増え、子どもたちから発信して活動に取り組むことが多かったように思う。またその中で発信の少ない児に対しては個別でフォローをし、クラス全体が取り組んでいけるよう配慮をした。

子どもたちの詳しい姿については上記の欄参照。

「何のテントウムシだろう」「もう少しで大人になるテントウムシだ」「〇〇くん、ここにいるよ、発見したよ」と子ども通しのやり取りも盛んになってきたため、子どもたちの発見をしっかりと受け止め、次の活動に発展できるよう関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは数名で始まったダンゴムシの観察や図鑑作りであったが、活動に興味を持って参加する子どもが少しずつ増え、最終的にはクラス全員の活動へと広がった。

自分たちの調べたことや作った図鑑を保護者や他クラスの子どもたちに見てもらえたことで自信が付き、次への活動の意欲へと繋がったように感じる。また自分の調べたことや行ったことが形となり(図鑑や掲示物)、自分の目で見てわかる環境であったことも活動が広がっていった一つの要因であったと思う。

そんなに広くない園庭であるが、たくさんの命があり、子どもたちにとっても保育園にとっても大切な場所であると再認識をした。今後も園庭で育っていく命を大切に、また命が育つ場所としても園庭を大切な資源としていきたい。